

乳児期の発達的リスク（危険因子）

発達障がい的なリスクがあることが、ある段階に気がついてあげて、適切な遊び方や保育の仕方に工夫を凝らすと、発達のなつまずきが軽減されると考えられます。もし、その時期に気づかなかつたならば、子どもの発達は固定する危険性があります。その境界線を臨界期と呼びます。

研修会の後、先生方からこのような質問を受けることが多くなりました。

11ヶ月児男の子。オムツを替える時に全身又は顔を後ろに反ってしまう。人見知り
が激しく長時間泣き続ける。母親の迎えの時間も表情が乏しい。常に大きな声で発語して
いる。

11ヶ月半児男の子。保護者の迎えの時にも表情がなく、保育者が声をかけて促す
が表情が出ない。身体をつつぱり立ち上がろうとするがまだ歩けない。人見知りがなく、
保育園にきた人なら誰にでも寄っていく。

11ヶ月半女の子。動くことが少なくずり這いで移動する。
保護者の迎えの時にも表情が少ない。

1歳2ヶ月児男の子。全身の筋肉が弱い。つかまり立ちをするが腰が弱くすぐに座り込
む。指差し、手を叩く、手を上げることをしない。名前を呼ばれても振り向かない。

10ヶ月児の時に手を出すことがなく、お皿に顔をつけて食べようとしていた。

最近の研究では、3歳児に発達障がい児(自閉症スペクトラム児)と診断された子どもの7～
8月を調べた結果、多くの子どもは親の視線や口元に視線を向けていなかったという報告
があります。(注：3歳児の7～8ヶ月児のホームビデオから調査されたようです。)

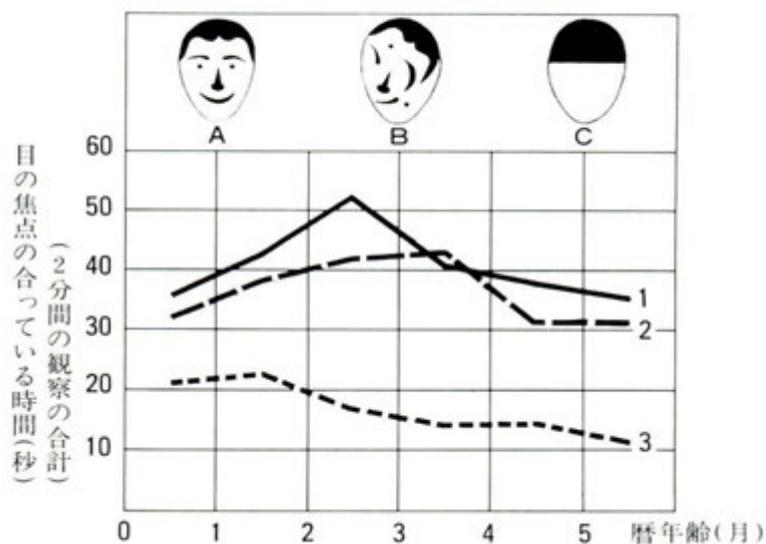
乳児期の表情、泣き方、視線の方向、注意の仕方、遊び方等を注意深く観察することで、
乳児期の発達的なリスクを軽減してあげられる可能性が大です。



(誕生1ヶ月児の視線です。じっと何かを凝視しているようです。) 辻井正撮影

乳児は何に関心を示しているのかの実験があります。

下図の三つの顔を生後3ヶ月児の乳児の顔の上から見せると、真ん中の複雑な顔を長く眺めます。その後は、毎日自分の前に現れる母親の顔に視線を当てます。



生まれながらに複雑な形に関心を持つと考えられています。長い人類の進化の過程で、複雑なものを見分ける能力を獲得することで、生存競争に打ち勝ち今日の進化を遂げたのかもしれない。

現場からの報告 1

次のような話を保育現場から聞くたびに、乳児の表情を注意深く観察することで、子どもの発達のリスクが予想できることです。

その一つ：0歳児から5年間保育園で預かり、昨年小学校に上がりました。3歳の時に重度の自閉症児と診断され、主任さんも積極的に関わった子どもだそうです。

彼の2歳児の妹が入園してきて、彼女の遊び方が兄の2～3児ごろの遊び方に似ていることに気がついたそうです。

無理に母親を説得して病院で検査してもらったけれども、心配するような兆候は無いと診断でした。

病院では子どもの個体を診察し観察するのですが、保育園では集団の中で子どもの遊びや発達を観察します。診察室では見えないことが保育室では見えるのです。

2歳児の妹のこだわりの遊びや、長い時間、自分一人で遊び続けることに対して、保育園側としてできる限りの関わりを持つ努力をしておられます。

現場からの報告 2

二つ目の話：親しくしている園長先生からのお電話です。5歳児の多動で乱暴な子どものことで担任が頭を痛めているそうです。毎日のようにトラブルがあるそうです。園長先生は、何となく気になって、彼の2歳児の保育記録を読み直して驚いたのは、すでに、2歳児の段階で、抱くと嫌がって泣く、そっくり返る、口に入れた食事を咀嚼しないでいつまでも口に入れたまま等々と書かれていたのです。

園長先生いわく、もう少し知識を持っておればあの当時の遊び方や世話の仕方に工夫を凝らせたかもしれないと話されました。

写真で見る乳児の社会性の発達

写真の説明：誕生1ヶ月目の乳児の母親を見つめる、驚いたような目からわかるように、母親との関係を深めて行こうとしています。



写真の説明：大きく開かれた目に軽く口を開いている。乳児は母親の顔を非常に注意深く見ていることが分かります。



写真の説明：家族以外の大人と接触する場合、大人側の表情の視線の位置が乳児の表情を引き出す重要な役割をしています。



写真の説明：見知らぬ人に対しても喜びの表現をする。



写真の説明：兄弟姉妹にとって赤ちゃんの誕生は喜びであると同時に、赤ちゃんに家族の関心が集まり、しばしば沈んだ気持ちになります。



写真の説明：3～4ヶ月頃、全てを世話されることで関係を深めていく時期です。



写真の説明：自分の手や動きを見て、次第に自分自身について知るようになります。



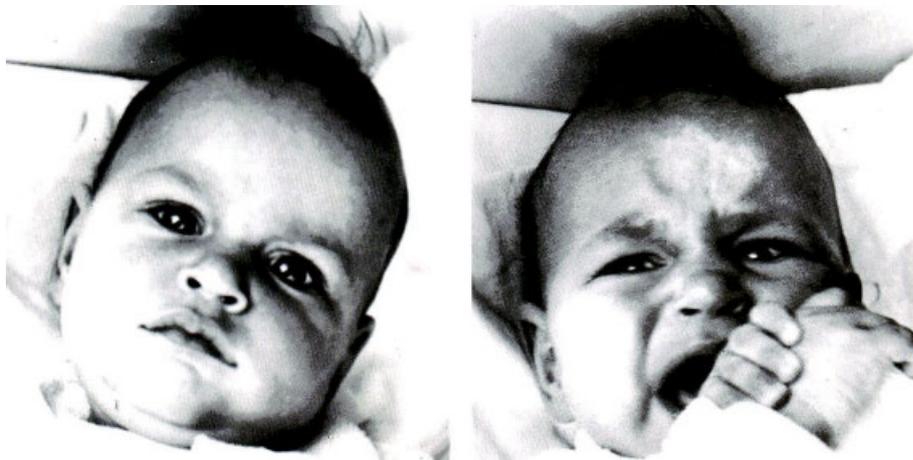
写真の説明：5～6ヶ月頃、鏡の中に自分を見つけますが、それが自分であることはわかっていません。



写真の説明：家族等の親しげな人への笑い。



写真の説明：7～8ヶ月頃に、見知らぬ人への不安感とを表し、時に恐怖感を抱きます。



Das Kind von der Geburt より
(写真は元チューリッヒ大学精神科教授ヘルツカー先生提供)